

氏名・生年月日	山 口 多 恵		
学位（専攻分野）	博 士（看護学）		
学 位 記 番 号	千大院看護博甲第189号		
学位記授与の日付	平成30年3月31日		
学位記授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
学 位 論 文 題 目	回復期リハビリテーション病棟における中堅看護師のアンラーニングのプロセスのモデル作成と検証		
論 文 審 査 委 員	（主査）教授	中 山 登志子	
	（副査）教授	諏 訪 さゆり	教授 酒 井 郁 子
		准教授 池 崎 澄 江	

論 文 内 容 の 要 旨

本研究の目的は、一般病棟から回復期リハビリテーション病棟（以下、回りハ病棟）へ配置転換した中堅看護師のアンラーニングのプロセスの仮説モデルの検証、および、外的基準（専門職連携実践能力評価尺度；CICS29）とアンラーニングのプロセスの因子との関連を解明することである。

研究1．アンラーニングの概念を概念分析により明らかにする

Rodgers の概念分析を用いて“アンラーニング”を時代や環境の変化により有用性を失った知識や技術、価値観、ルーティンを棄却して新しいものを獲得する継続的プロセスと定義した。

研究2．中堅看護師のアンラーニングのプロセスを解明し、仮説モデルを作成する

中堅看護師 23 名のインタビューからアンラーニングのプロセスを構成する【気づき】【葛藤】【棄却】【獲得】【受容】【定着】の6因子を抽出しプロセスの仮説モデルを作成した。

研究3．中堅看護師のアンラーニングのプロセスの仮説モデルの検証および外的基準とアンラーニングのプロセスの因子との関連を解明する

質問紙を用いて調査を実施し、共分散構造分析により仮説モデルを検証した結果、適合度指標は基準を満たさなかった。そのため、仮説モデルの【受容】と【定着】を統合して5因子構造へと修正した。また、パスを追加し観測変数を削除した。結果、GFI=.95、AGFI=.93、RMSEA=.06 となり、適合度の良いモデルであることを確認した。

CICS29 を従属変数、アンラーニングのプロセスの因子を独立変数とした重回帰分析の結果、【葛藤】は $\beta = -.16$ ($p < .01$)、【定着】は $\beta = .50$ ($p < .01$) であった。

以上より、回りハ病棟における中堅看護師のアンラーニングは、【気づき】【葛藤】【棄却】【獲得】【定着】のプロセスを辿ることが証明された。また、【葛藤】は専門職連携実践能力にマイナスに影響し、【定着】はプラスに影響する可能性が示唆された。

論文審査の結果の要旨

地域包括ケアシステムの構築に伴い、回復期リハビリテーション病棟（以下、リハ病棟）に所属する看護師の役割は従来にも増して重要となっている。本研究は、中堅看護師が一般病棟からリハ病棟に配置転換する際に必要となる「アンラーニング」に着眼し、アンラーニングのプロセスの仮説モデルの作成と検証を目的とする。研究目的達成に向け、次の3段階を経た。

第1段階：概念分析を用いてアンラーニングの概念を明らかにした。第2段階：一般病棟からリハ病棟へ配置転換した中堅看護師のアンラーニングのプロセスを質的に解明し、仮説モデルを作成した。第3段階：リハ病棟に所属する中堅看護師 1,099 名を対象にした質問紙調査により仮説モデルを検証し、専門職連携実践能力とアンラーニングのプロセスの因子の関連を解明した。結果は、リハ病棟に所属する中堅看護師のアンラーニングが、【気づき】【葛藤】【棄却】【獲得】【定着】のプロセスを辿ることを明らかにした。また、アンラーニングのプロセスのうち、【葛藤】は専門職連携実践能力に負の影響を及ぼし、【定着】は正の影響を及ぼすことを示した。

本研究は、組織学や経営学の領域で用いられてきた学習概念を、変化への対応に必要な認知転換の学習プロセスとの合致点から看護学に導入した点に新規性がある。また、配置転換した看護師に焦点を当てた先行研究の多くが、配置転換に伴う体験の質的解明に留まっているのに対し、本研究は、質的に解明した看護師の体験を用いて仮説モデルを作成し、それを実証的に検証した点に独自性がある。

本研究の成果は、在宅医療への転換期にある日本の医療システムにおいて、その架け橋となるとともに、在宅医療を支えるリハビリテーション看護の理論的発展に貢献し、本論文を博士（看護学）の学位論文に値するものと認める。